

経営比較分析表（平成28年度決算）

滋賀県 成人病センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	30	対象	I 訓 方	救 臨 が 地
人口(人)	建物面積 (㎡)	不採算地区病院	看護配置	
1,420,260	90,746	非該当	7 : 1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン(放射線)診療

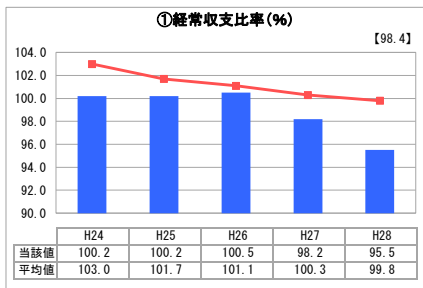
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
535	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	535
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
535	-	535

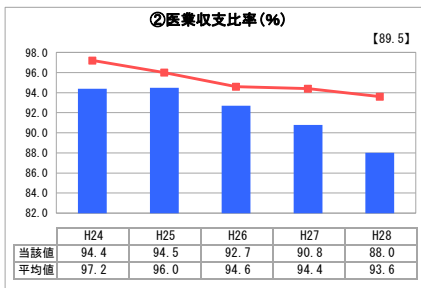
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

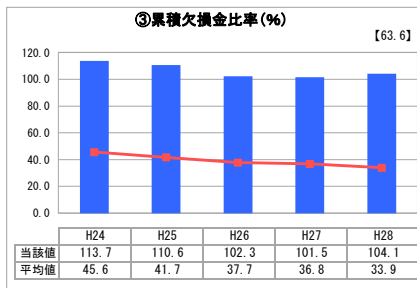
1. 経営の健全性・効率性



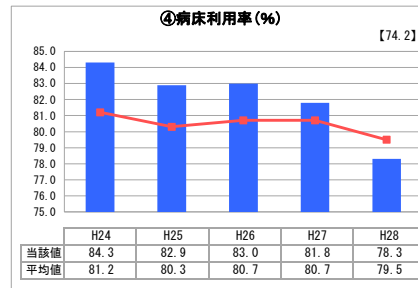
「経常損益」



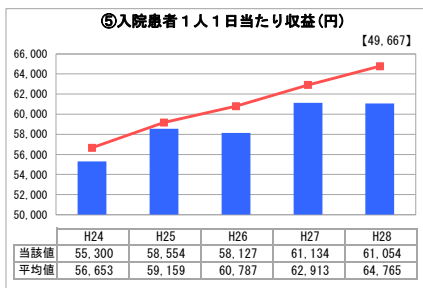
「医業損益」



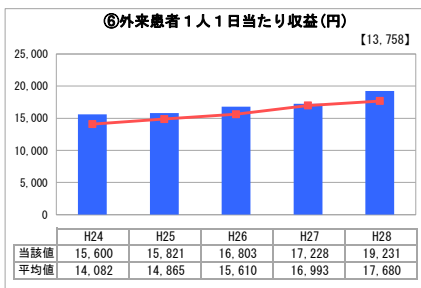
「累積欠損」



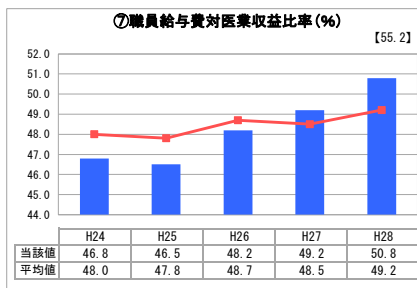
「施設の効率性」



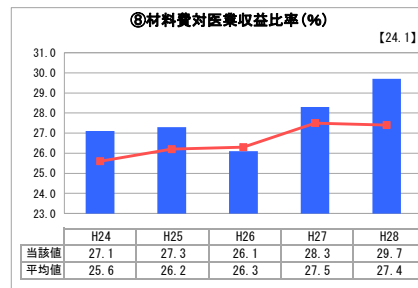
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

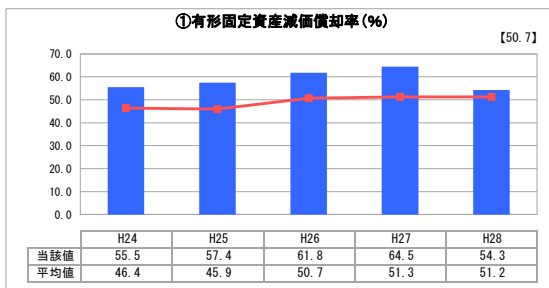


「費用の効率性①」

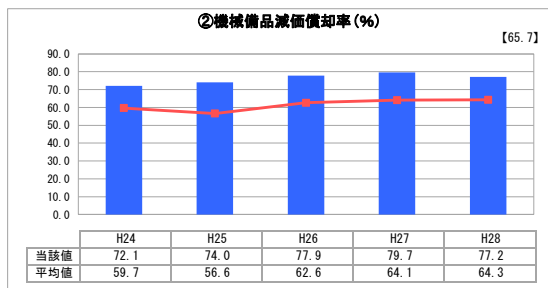


「費用の効率性②」

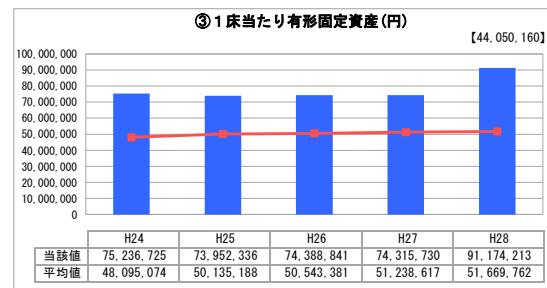
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

がんをはじめとした専門分野において、手術、化学療法、放射線治療のほか、リハビリテーション、再建医療、緩和ケアも含めた多角的総合的な医療、ケアを提供するなど、県内全域を対象とした、高度な医療の提供を担っている。
また、脳・心臓血管疾患を中心に24時間体制で救急患者を受け入れるなど、救急医療の提供を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・経常収支比率は、診療報酬のマイナス改定、消費税率引上げに伴う負担増などにより平成27年度以降2年連続して減少し100%を下回っている。
- ・平成28年11月の新病棟開棟にあわせて増床により、平成28年度には病床利用率が低下している。
- ・入院患者1人1日あたり収益は増加傾向にあるものの全国平均を下回っている。
- ・職員給与費対医業収益比率は、増床に備えて平成25年度から医療職の採用を増やしたことなどから職員給与費対医業収益を上回って上昇し、全国平均を超えている。
- ・高額な抗がん剤治療にも幅広く対応しており、平成27年度以降、材料費対医業収益比率が上昇して全国平均を上回っている。

2. 老朽化の状況について

- ・有形固定資産減価償却率は全国平均よりもやや高い水準にあったが、新病棟の建設などにより平成28年度は大きく減少している。
- ・機械備品減価償却率については、新病棟の建設と併せて新たな医療機器を多数導入したが、まだ全国平均よりも高い水準にあることから、引き続き計画的に更新を進めていく必要がある。
- ・高度な医療の提供に向けた、建物、医療機器などにより1床あたり有形固定資産の保有が全国平均よりも多い傾向にある。新病棟の建設に伴って平成28年度はさらに増加している。

全体総括

当院では、がん、血管病をはじめ、加齢に伴って複合的に生じる疾患に対して困難な症例にも対応できるよう高い専門性を有する人材を確保するとともに、新病棟を含めた高度な医療機能を備えた設備、機器を整備してきたところ。
その一方で、診療収益の伸び悩み、職員給与費の増加、減価償却費の負担など、経営環境は厳しいものになっている。
今後は、当院の機能に見合った多くの患者さんに医療を提供することで、収益の確保に努めるとともに、労働生産性の向上による時間外勤務の縮減や価格交渉による材料費の削減など費用の適正化を図り、単年度黒字化を達成し、累積欠損金を減少させていく必要がある。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

滋賀県 小児保健医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	訓	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,420,260	12,970	非該当	7：1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
100	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	100
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
100	-	100

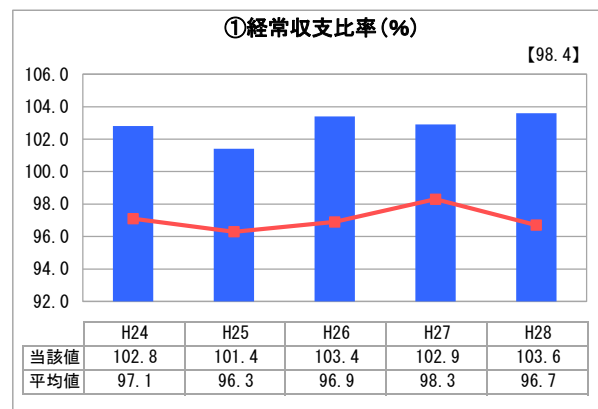
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

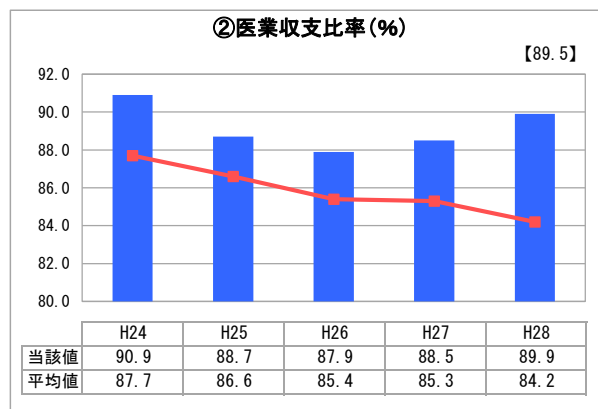
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

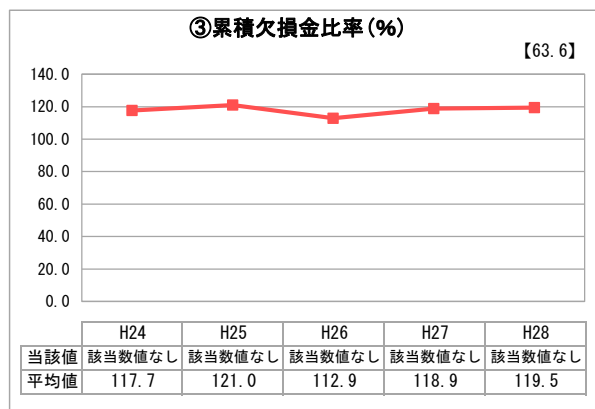
1. 経営の健全性・効率性



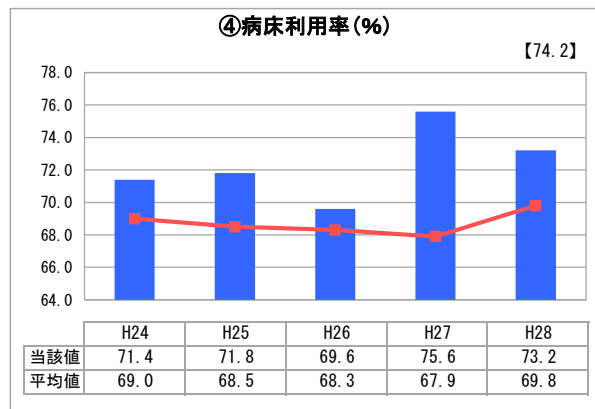
「経常損益」



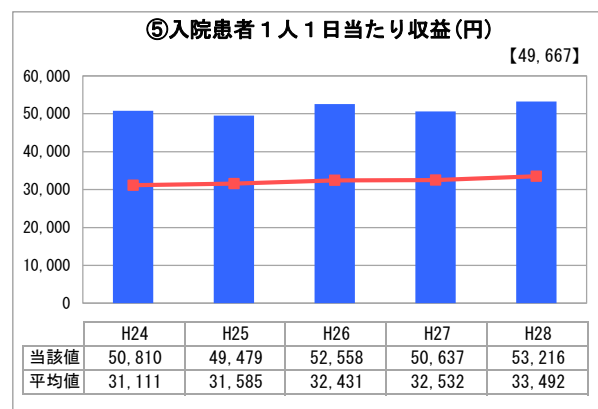
「医業損益」



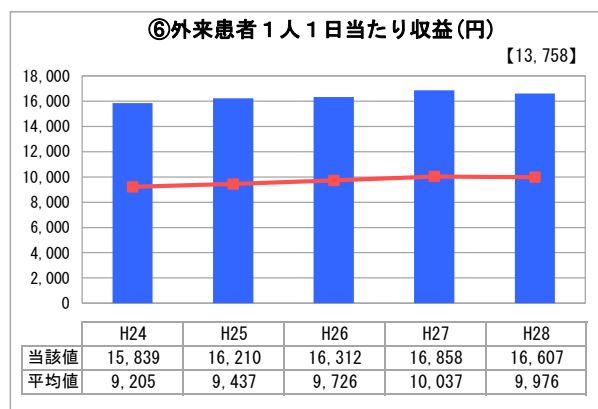
「累積欠損」



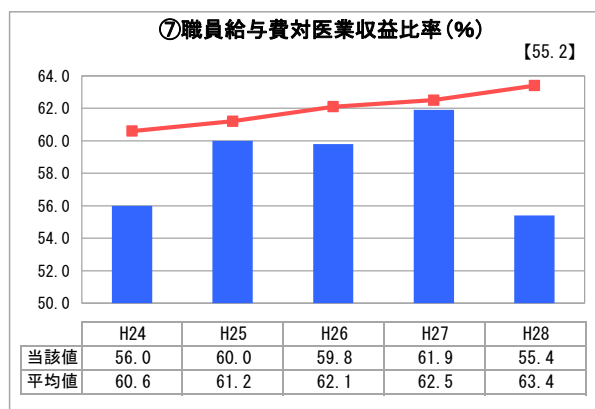
「施設の効率性」



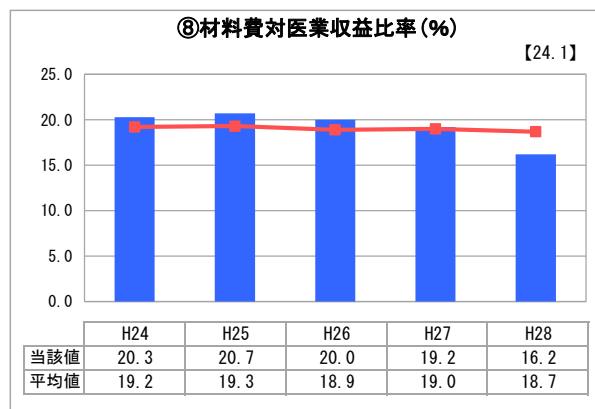
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

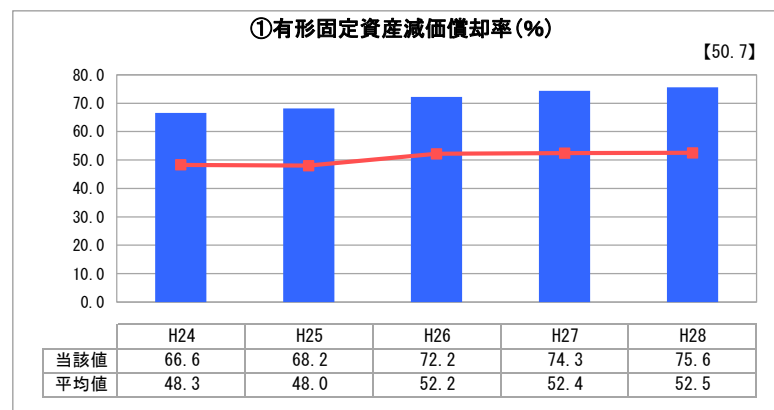


「費用の効率性①」

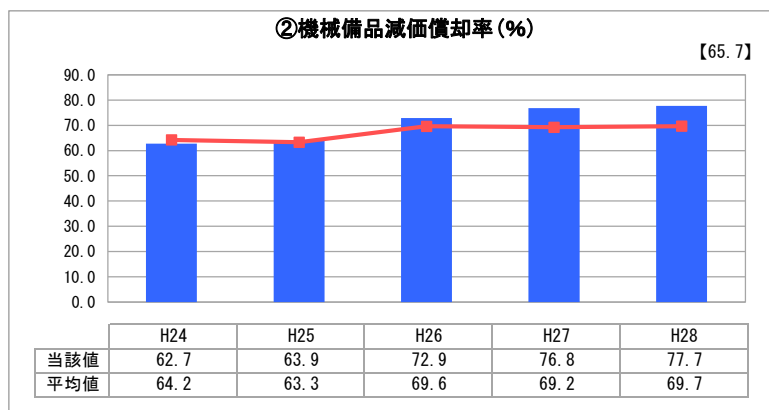


「費用の効率性②」

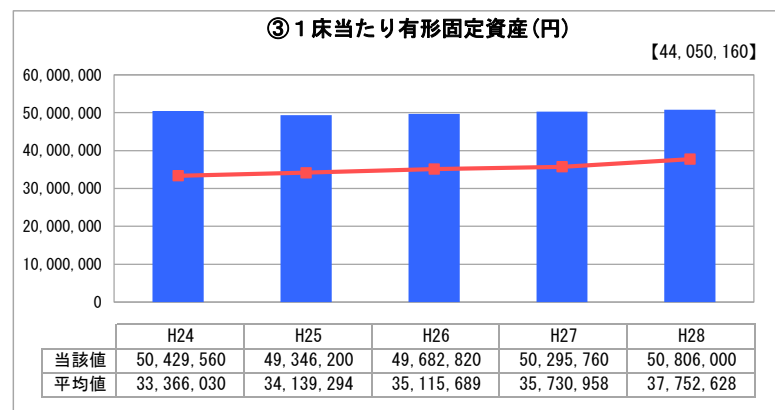
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

- ・一般病院では対応困難な障害児医療や難治・慢性疾患を中心に、地域医療機関と連携を図りながら高度専門的かつ包括医療を提供している。
- ・乳幼児健診事業、母子保健従事者への研修、生活集団教室や遺伝相談など、母子保健の中核的支援拠点として小児保健サービスを提供している。
- ・児童福祉法に基づく医療型児童発達支援センターを併設し、総合的な療育とリハビリテーションを行うとともに、地域療育教室への職員派遣や療育研修会などのサービスを提供している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・医業収支比率は、100%を下回っており、収支の不足分については医業外活動で賄っている。そのため、経常収支比率は100%を上回っており、類似病院の平均値と比べても高い。今後も診療収益の増加を図り、健全な経営の維持に努める。
- ・病床利用率は、平成26年度のみ70%を下回ったが、概ね70%以上を維持しており、類似病院の平均値と比べても高い。今後も手術件数を増やすなど病床利用率の向上に努める。
- ・材料費対医業収益比率については、低下傾向にあり、平成28年度は類似病院の平均値を下回った。これは、診療材料をより低価格なものに変えることができないか随時検討し、仕入れコストの削減に努めたためである。今後も引き続き経費の節減に努める。

2. 老朽化の状況について

- ・当センターは、開設から29年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでおり、類似病院の平均値と比べても減価償却率が高い。また、法定耐用年数を超過した備品についても修繕で対応するなど、可能な限り長く使用している。現在、病院の建て替えを計画しており、新病院への移転の際に備品を新しく整備する予定である。
- ・当センターは、一般病院では対応困難な障害児医療や難治・慢性疾患患者を中心とした高度専門医療を提供しているため、医療機器においては、性能が高く機能が充実した機器を整備している。そのため、1床あたりの有形固定資産の比率が同規模の一般病院の平均値より高くなっている。

全体総括

当センターは、各指標が示すとおり、概ね健全な経営が保たれている。今後は、診療収益の増加を図ることにより医業収支比率を改善し、より安定した健全経営に努めていく。

また、当センターは、昭和63年の開設以来、難治慢性疾患患者の治療・ケア・保健を中心とした高度専門医療を提供してきたが、この間、医療技術が急速に進歩する一方で、重症患児や発達障害児の増加など、開設当初の医療機能では対応が困難な問題が生じてきた。このため、当センターが果たすべき役割や病院機能について検討を行い、平成27年度に病院機能再構築の基本的な方向性となる基本構想を策定した。平成28年度は、この基本構想をさらに具体化し、詳細な内容を整理した基本計画の検討を行った。これを踏まえて、平成29年度に基本計画を策定した。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

滋賀県 精神医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	精神科病院	精神病院	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	4	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,420,260	10,398	非該当	15:1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
123	-	123
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

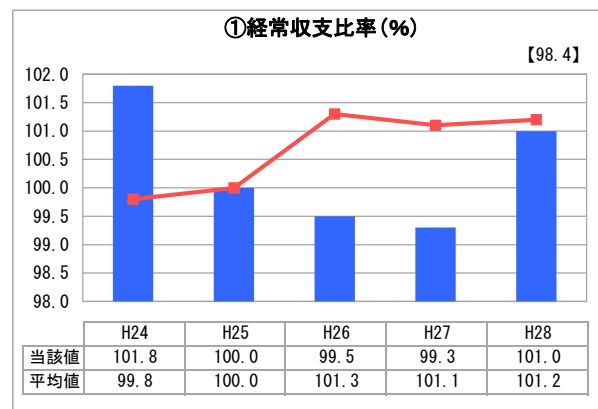
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

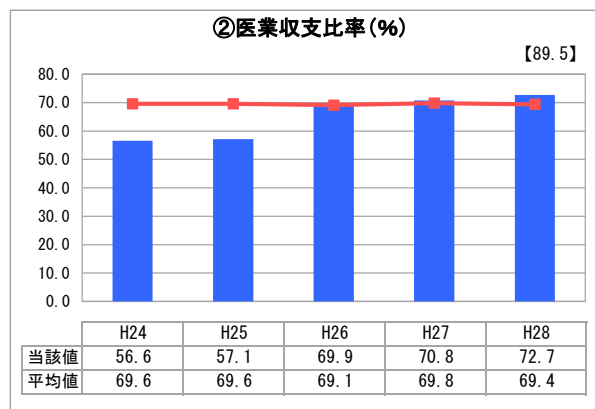
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

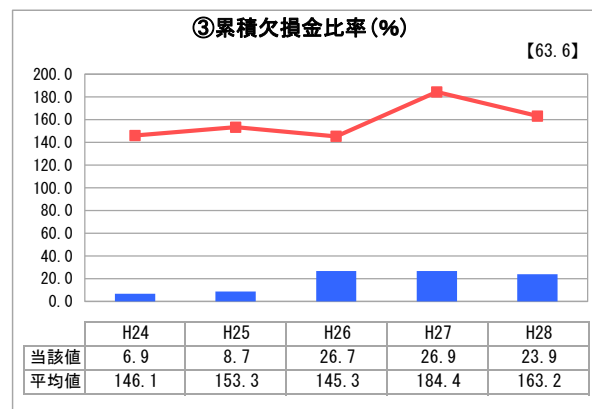
1. 経営の健全性・効率性



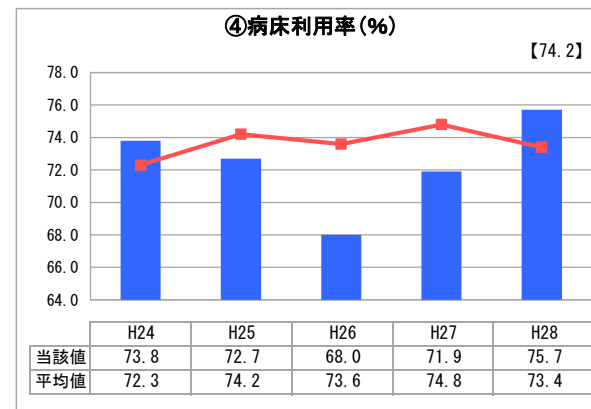
「経常損益」



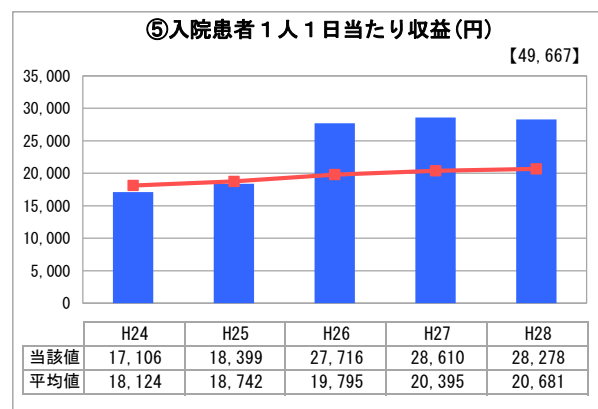
「医業損益」



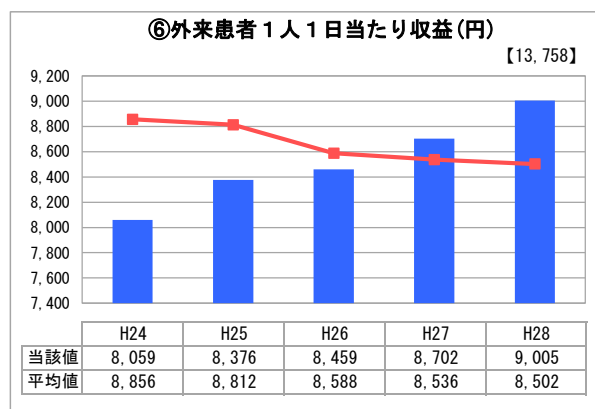
「累積欠損」



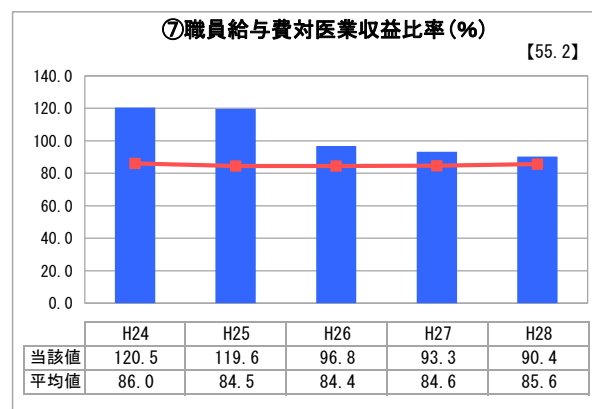
「施設の効率性」



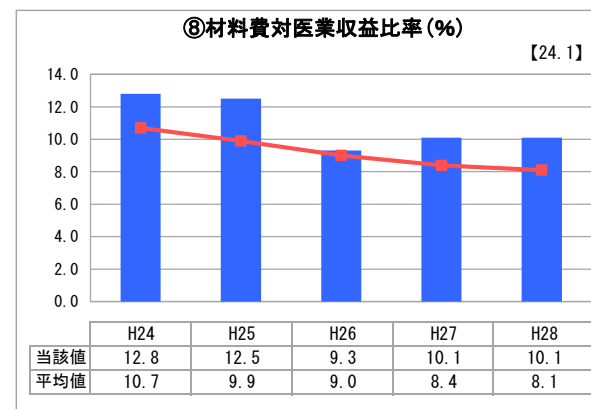
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

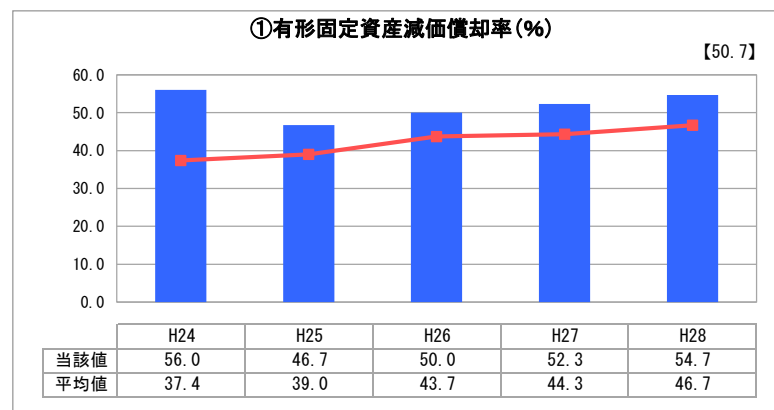


「費用の効率性①」

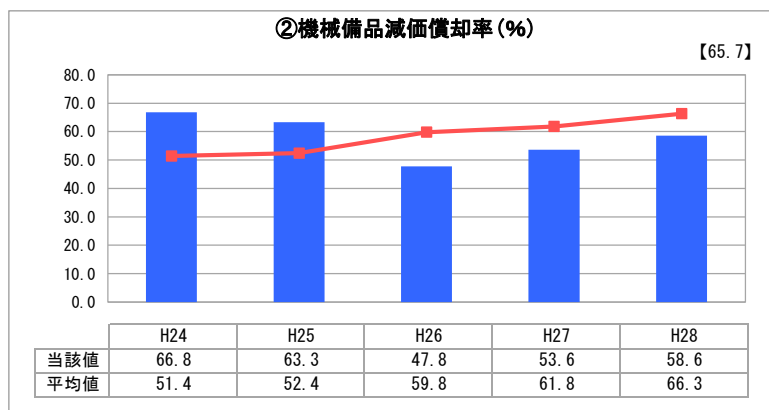


「費用の効率性②」

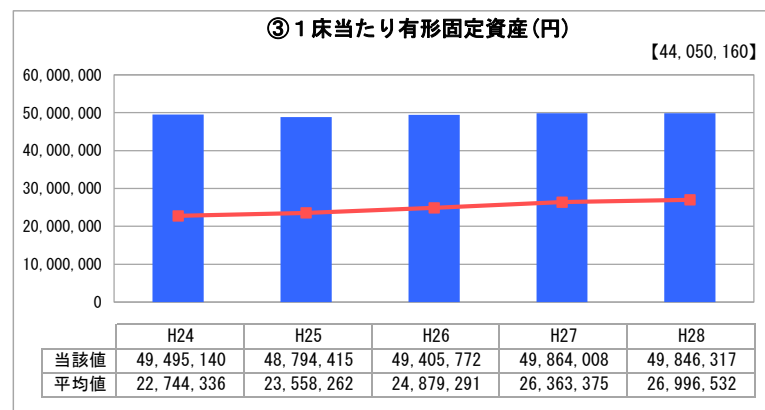
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

県内の精神医療を担う中核施設として、地域医療機関や保健所などの関係機関との連携のもと、思春期精神障害、アルコール依存症等中毒性精神障害、精神科救急医療および身体疾患を伴う精神障害などを中心として、高度・特殊専門医療を担っている。

また医療観察法に基づく鑑定入院および指定通院・入院医療機関としての医療を提供している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・平成26～27年度が赤字となったが、外来の新患枠を増やすなど患者確保等に取り組んだことで、平成28年度は黒字決算となった。ただし、医業収支比率が100%を下回っていることから、引き続き診療収益増加の取り組みが必要である。

・平成28年度は病床利用率、入院患者1人1日当たり収益、外来患者1人1日当たり収益のいずれも類似病院平均値を上回っており、これを継続することで、経常収支比率のさらなる改善および累積欠損金の解消に努めていく。

・職員給与費対医業収益比率については、当センターの精神科医すべてが精神保健指定医であること、看護師のすべてが正看護師であることなどが影響し、類似病院平均値を上回っていると考えられる。

・材料費対医業収益比率が類似病院平均値より高い傾向にあり、採用品目に見直しなどコスト削減が必要である。

2. 老朽化の状況について

・平成25年度に新病棟を開設したことから一時的に有形固定資産減価償却率が減少したが、既存病棟は平成4年度に開設したものであり、類似病院平均値と比較してもやや老朽化が進んでいる。

・耐用年数を超過している備品が多くあるが、平成26年度に電子カルテを導入したことで、機械備品減価償却率が類似病院平均値より低くなっていると推測される。

・県立病院として本来の病院以上の機能を付加して建設しているため、類似病院平均値よりも1床当たり有形固定資産が高くなっている。

全体総括

・職員給与費率や材料費率など類似病院平均値と比較するとややコスト高になっている部分はあるものの、経常収支比率は100%以上となっており、医業収支比率も類似病院平均値より高いことから概ね健全な経営が保たれている。

・引き続き診療収益確保・経費節減の取り組みなどにより健全な経営に努め、県立病院としての役割を果たしていく。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。